まちを愛する心が活動の幅を広げます

市民活動団体と企業、大学などが協働し、地域課題解決のモデルとなる事業を提案した団体を表彰する「さかい市民活動協働大賞」（主催／堺市）。第3回は「泉北レモンの街ストーリー」が大賞に選ばれ、特別賞として「特定非営利活動法人ぴーす」「大阪府立大学 ボランティア・市民活動センター V-station」が選ばれました。それぞれの団体の活動内容などを紹介します。

「さかい市民活動協働大賞」受賞者の皆さん

「泉北レモンの街ストーリー」が大賞受賞

泉北レモンでみんなが憧れる街に

1月29日「さかい市民活動協働大賞（第3回さかいNPO協働大賞）」の表彰式が、昨年秋グランドオープンした「フェニーチェ堺」で行われました。式の後、堺市市民人権局長の光齋（こうさい）かおりさん、「泉北レモンの街ストーリー」代表の苅谷由佳さんとの対談が行われました。※文中敬称略。

◇ ◇

―3回目となる、同協働大賞ですが、その目的と、回を重ねる中で感じておられることは？

光齋 一番の目的は、コミュニティーの活性化に尽力されている皆さまをたたえたい、そしてその活動を広く知ってもらいたいということです。市民活動団体の皆さまが、地域、企業や学校などの団体を巻き込みながら活動を広げていくことに、まちの活力を感じています。今回も、協働の仕組みや実行力などについて、高く評価させていただきました。

―今回の大賞「泉北レモンの街ストーリー」。活動のきっかけを教えてください。

苅谷 結婚後、あちこちに住んだ友人に渡せる堺土産はたくさんあるけれど、〝泉北〟のお土産として渡せるものがないことに気が付きました。そこで、以前から自宅に植えていたレモンがとても7月から活動を始めました。レモンは、5月になると白い花を付け、甘い香りが周囲に広がります。この香りが、まちの香りになればいいなと、強く思っています。

―具体的な取り組みは？

苅谷 レモンの苗木を個人宅や学校、企業、店舗などに植えてもらい、レモンを介したコミュニケーション・ネットワークづくりに励んでいます。レモンが泉北のシンボルになることで、みんなが憧れるまちに昇華されたらうれしいです。

メンバーの皆さんと受賞の喜びを胸に、記念撮影

「泉北レモンの街ストーリー」代表の苅谷由佳さん

900人以上が賛同、泉北で育まれた地元愛

―まちがレモンを通して、一丸となりつつある様子がうかがえます。

苅谷 泉北ニュータウンは、他地域から引っ越してきた住民が非常に多く地域なのですが、皆さん地元愛がとても強いんです。長年暮らす中で、自分たちのまちを誇りに思う気持ちを表現したいという気持ちを表現したいとみんなで考えているときに、私たちが「レモン」というものを提示した。タイミングが良かったんだと思います。活動を開始して5年もたたないうちに、900人以上の方が動いてくださいました。

光齋 活動が成熟段階に入られたわけですね。さわやかでかわいらしい、そして食べられるレモンに着目されたのは、とても素晴らしいと思います。企業と協働しながら加工品の販売にも注力されていますが、個人的にはジャムが食べてみたいですね（笑）。特産品が広まれば、泉北の宣伝にもなりますね。

―今後の展望は？

苅谷 レモンをたくさん見ることができる場所が増え、一年中レモンを身近に感じて生活できるまち、レモンで人を迎えられるまちになることです。

光齋 苅谷さんのような、まちを愛する市民の皆さまの熱意が、より大きなコミュニティー活動の広がりを生み、まちの魅力や価値の向上につながっていくと思っています。これからの活動に期待しています。

堺市市民人権局長の光齋かおりさん

大賞

泉北レモンの街ストーリー

年齢や職業の異なる15人のメンバーで活動。レモンの苗木の植樹、鉢植え設置の推進、レモンを介したコミュニケーション・ネットワークづくりに取り組む。「泉北レモン」は商標を取り、大阪産（もん）、堺市優良観光みやげ品に認定された「マーマレード・フロマージュ」をはじめとした加工品を開発。毎年3月に大蓮公園で泉北レモンフェスタを開催し、泉北レモンの普及を通じてまちの新たな活力・魅力を醸成している。

特別賞

特定非営利活動法人ぴーす

発達障害児と保護者を同時に支援

ぴーす（前身団体）では、2004年の発達障害者支援法施行前から、発達障害児への支援活動に取り組み、現在は、児童デイサービス、セミナー主催、講師派遣なども実施。「発達障害において全般的にいえるのは、社会性とコミュニケーション能力の弱さです」と、小田多佳子さん。

そこで、2008年から人権教育活動に取り組む「特定非営利活動法人えんぱわめんと堺」によるプログラムを基にしたワークショップを始めました。

並行して、発達障害者支援センター「アプリコット堺」のスタッフによる保護者向け相談会も実施。ともに活動のサポートはぴーすが担当。3つの団体の異なる専門性を生かしながら協働することで子ども・保護者の双方に役立つ仕組みが成り立っています。

「私たちがやりたいのは、子どもたちのエンパワーメントを高めること。発達障害は自分で自分をサポートする、自己容認が大切です。障害があっても自分を素敵な人なんだとプライドを持って、楽しく暮らしてもらいたいですね」と温かい思いを語ってくれました。

特定非営利活動法人ぴーす 理事長 小田多佳子さん

写真左はぴーすの田中知子さん

特別賞

大阪府立大学 ボランティア・市民活動センター V-station

学生と地域がつながり防災コミュニティーに

大阪府立大学「ボランティア・市民活動センターV-station」（センター長＝吉田敦彦副学長）は、学生が地域住民、小学校や自治会と交流・連携し、〝防災コミュニティーを作り上げること〟を目的に活動を続けています。例えば、今回の協働事業の一つには、近隣の土師校区自主防災会と小学校などで実施したさまざまな防災イベントも。「子どもが積極的に参加してくれれば、保護者も興味を持ってくれます。そこで防災が持つ硬いイメージを覆すような、ゲーム感覚で楽しめるプログラムも実施しています」と話すのは、災害ボランティアチームの陳代（ぢんだい）修平さん（2年生）。土師校区自主防災会との協働事業は5年目に突入。回を重ねるごとに地域との信頼関係が深まり、情報の共有も進んでいます。〝防災意識の高い地域〟を生み出す取り組みとしてまちの成熟にも一役買っているよう。

「防災訓練への参加率が低いのは、私たちのような大学生から子育て世代にかけての層。災害時に最も活躍しなければならないこの世代をどう巻き込んでいくか。今後もチーム全員で取り組んでいきたい」と陳代さん。学生ならではの視点が、V-stationの活動を支えています。

大阪府立大学 工学域機械系学類2年生 陳代修平さん

表彰式会場 **フェニーチェ堺**

堺が誇る新たな文化芸術の拠点に（南海堺東駅から徒歩約8分）

どの席からもステージが見やすい大ホール（2000席・3層バルコニー構造）

表彰式が行われたのは、昨年10月にオープンしたばかりの「フェニーチェ堺」（堺市民芸術文化ホール）。圧巻の大ホールや伝統芸能にも対応した小ホール、市民の文化的活動を豊かなものにするスタジオや多目的室などが完備されています。

問い合わせ
堺市市民人権局
市民生活部市民協働課
堺市堺区南瓦町3-1
☎072-228-7405